

針聞書



[針聞書 下载链接1](#)

著者:茨木元行

出版者:国書刊行会

出版时间:2007

装帧:

isbn:9784336048462

スタマック・モンスター大集合。戦国時代の医学書「針聞書」に描かれた、人の体内に潜んで病気をひき起こすと考えられていた、奇妙奇天烈でキモカワイイ、63匹の虫たちをオールカラーで収録する。

永禄11（1568）年10月11日、摂津の国（現・大阪府）の住人・茨木元行によって書かれた。

針灸が日本で発展したことを示す資料的に貴重な医学書ではあるが、病気の元凶となる「蟲」たちの外形と特徴がカラフルでオリジナリティに溢れたイラストで掲載されており、これだけ多くの蟲たちが描かれている資料は、日本でもほとんど確認されておらず、現在の視点で見れば、江戸期の「妖怪ブーム」に先駆けた一大「妖怪図鑑」としての価値を有していると言える。

全体は4部構成から成り、

- 1、針の基本的な打ち方、病気別の針の打ち方などを記した聞書
- 2、灸や針を体のどこに打つか示した図
- 3、体の中にいる虫の図とその治療法（針灸や漢方薬）
- 4、臓器や体内の解剖図

となっている。

特に3で紹介されている「蟲」の図は63点に及ぶ。

「脾臓の虫」数種、「こせう（モノを言う虫）」、「気積（きしゃく）」、「陰虫（かげむし。男女和合すると出てくる）」、「脾積（ひしゃく）」、「血積（ちしゃく）」、「肝積（かんしゃく）」、「馬かん（うまかん。心臓の虫）」、「蟯虫（ぎょうちゅう。閻魔大王に悪事を告げる）」、「亀積（かめしゃく。薬を妨害する虫）」、「肺虫（はいむし）」、「肝虫（かんむし。背骨のある大悪虫）」、「腹の虫（はらのむし）」、「肺積（はいしゃく）」、「腎積（じんしゃく）」、「脾ノ聚（ひのしゅ）」、「腰の虫（こしのむし）」、「キウカン」ほか、「五積、六聚」と呼ばれる想像上の「蟲」が上段に描かれ、下段に蟲の特徴、治療法が記されている。

九州国立博物館では、この華麗な「蟲」たちをキャラクターグッズ化しており、ぬいぐるみ、キーホルダー、ストラップ、シール、果てはTシャツ（S・Mサイズ）まで売り出されている。

作者介绍:

目录:

[針聞書_下载链接1](#)

标签

和

评论

日本古代的《本草纲目》……哈哈哈

[針聞書_下载链接1](#)

书评

[針聞書_下载链接1](#)